

様式第2号（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	川島町男女共同参画推進委員会	
開 催 日 時	平成28年11月29日（火） 午後1時30分から3時まで	
開 催 場 所	川島町役場 第2委員会室	
議 題	(1)会議の公開について (2)会議録の記録方法及び会議録署名委員の指名について (3)平成28年度川島町男女共同参画推進事業中間報告について (4)協議事項 ・男女共同参画に関する意識・実態調査の結果について ・川島町男女共同参画推進計画の見直し案について ・平成28年度川島町男女共同参画研修会について	
公開・非公開の別	公開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	委 員	1号委員 利根川晃美、佐々木美代子 2号委員 澤田和夫 4号委員 大野清子、大畑みよの、関根由希江
	事務局職員	総務課 江間裕一、喜多川真、小林厚美
配布資料	・川島町男女共同参画推進委員会 次第 ・平成28年度川島町男女共同参画推進事業計画 ・川島町男女共同参画に関する意識・実態調査報告書（案） ・川島町男女共同参画推進計画（見直し案概要版）	

## 審議会等の内容・概要

### 1 開 会

2 あいさつ 関根由希江委員長、江間主幹（事務局）

### 3 議 事

#### (1) 会議の公開について

個人情報を含む内容の審議ではないことから公開と決定した。

#### (2) 会議録の記録方法及び会議録署名委員の指名について

会議録は発言者の発言内容ごとの要点記録とすることとし、会議録指名委員は委員長の指名により、澤田和夫委員及び大野清子副委員長に決定した。

#### (3) 平成28年度川島町男女共同参画推進事業 中間報告について

配布資料『平成28年度川島町男女共同参画推進事業計画』に基づき、事務局より進捗状況を報告した。

#### (4) 協議事項

- ・男女共同参画に関する意識・実態調査の結果について

（事務局より説明）

委員長：事務局の説明に対して、内容に対して意見・質問があればお願いしたい。

委 員：6の暴力について、配偶者からの加害経験の有無を聞いている理由は何  
か。今後、加害者対応をするのか。被害経験の実態調査をしたことはあ  
るのか。

事務局：被害経験の実態調査をしたことはない。

委 員：加害者と被害者の意識がものすごく違うため、加害件数と被害件数は同  
数ではない。今回の調査では、暴力だと認識している人がこれだけいた  
という実態調査になる。加害者プログラムを町として入れる等の加害者  
支援をするためには良いデータになると思うが、被害者支援とは違うの  
ではないか。行政は今、被害者支援がやっとなのである。加害者支援が全国  
で少しずつ増えているが、町でまず被害者支援をとということであれば、  
被害経験の実態調査をしなければ、話が始まらないのではないかと。

委 員：他の市町村では、被害経験の有無を聞いているのか。

事務局：被害経験の有無を聞いているところもある。

委員：被害経験の実態調査をしなければ、施策へ反映できないのではないかと。

事務局：加害者の意識をとらえるきっかけとして、今回加害経験の設問を入れた。

男女共同参画に共通して言えることでもあるが、意識を変えさせることが1番の解決につながる。今回の調査や結果で、こういうことも暴力だと知るきっかけになればと思う。

委員：「喧嘩」はお互いが対等の立場にあるが、同じようなことが起こっていても、年齢差や経験差がある、片方の人数が多い、一方的にやられる関係、何か弱みがある等の場合は、「喧嘩」ではなく「いじめ」である。

DVの場合は、加害の側は「喧嘩」だと思っているが、対等ではない。

委員：「喧嘩」でも定義がわからないと様々なとらえ方をするので、各項目に定義として示すことができれば、意識づけにつながると思う。

・川島町男女共同参画推進計画の見直し案について

(川島町男女共同参画推進計画の見直し案について説明)

委員長：事務局の説明に対して、意見等があればお願いしたい。

委員：「基本目標3 女性の人権を尊重した男女共同参画の推進」の「施策の基本的方向(2)生涯を通じた健康支援」に、男女の性差に応じた健康を支援するための取組を推進することが必要とあるが、性と生殖にからむから性差という言葉を使っているのか。「全ての女性の生涯を通じた健康支援を推進する」とあるが、男性から見るとどうか。

委員：性と生殖ということであれば、女性ばかりではなく、男性への支援も入れるべきではないか。

事務局：男女ともに健康支援を推進することが必要である。健康福祉課とも確認し、計画に反映する。

委員：指標の中、夫婦間における「突き飛ばす」「平手でぶつ」を暴力として認識していない人がいることに驚きである。

委員：「しつけ」と「暴力」の認識の違いがある。夫婦間に限らず、指導者等も叩かなくても教えられる創意工夫が大事である。

委員：年代によって、考え方や意識が異なると思う。

委員：全体のことになるが、男女共同参画をもっと若い世代の人に知ってもら

いたい。学校教育の中で男女ともに様々なことをやり遂げて、大人になっても同じ立場のことができるようになるという意識をもっとつけさせてあげられたらいいと思う。今後の子供たちに意識をつけさせられる計画が入ってくるといいのかなと思う。

委員長：今後、事務局で整理を進めてもらい、今年度中の策定をお願いします。


・平成28年度川島町男女共同参画研修会について

(事務局より説明)

委員長：事務局の説明に対して、意見等があればお願いしたい。

委員：「男性らしさハラスメント」で、若い男性が職場で男性らしさを求められて疲れるというのがある。「男らしさ」「女らしさ」にとらわれることなく、その人らしさが大事である。

4 閉 会 大野清子副委員長

署 名	大野 清子 
	澤田 知夫 